

## 7. トピックス

- ①平成24年度 新規事業 国道153号伊勢神改良 ..... P68
- ②国道23号豊橋バイパス緊急連絡路の整備 ..... P69
- ③職員による橋梁の点検のとりにくみ ..... P70
- ④国道19号桜通自転車道の整備 ..... P71
- ⑤国道23号環境施設帯整備 ..... P73
- ⑥LED道路照明とICT(情報通信技術)の活用 ..... P74
- ⑦維持管理の合理化・コスト縮減を実現する新型車両の導入 ..... P75

①平成24年度 新規事業 国道153号伊勢神改良



②国道23号豊橋バイパス緊急連絡路の整備



③職員による橋梁の点検のとりにくみ



④国道19号桜通自転車道の整備



⑤国道23号環境施設帯整備



⑥LED道路照明とICT(情報通信技術)の活用



⑦維持管理の合理化・コスト縮減を実現する新型車両の導入

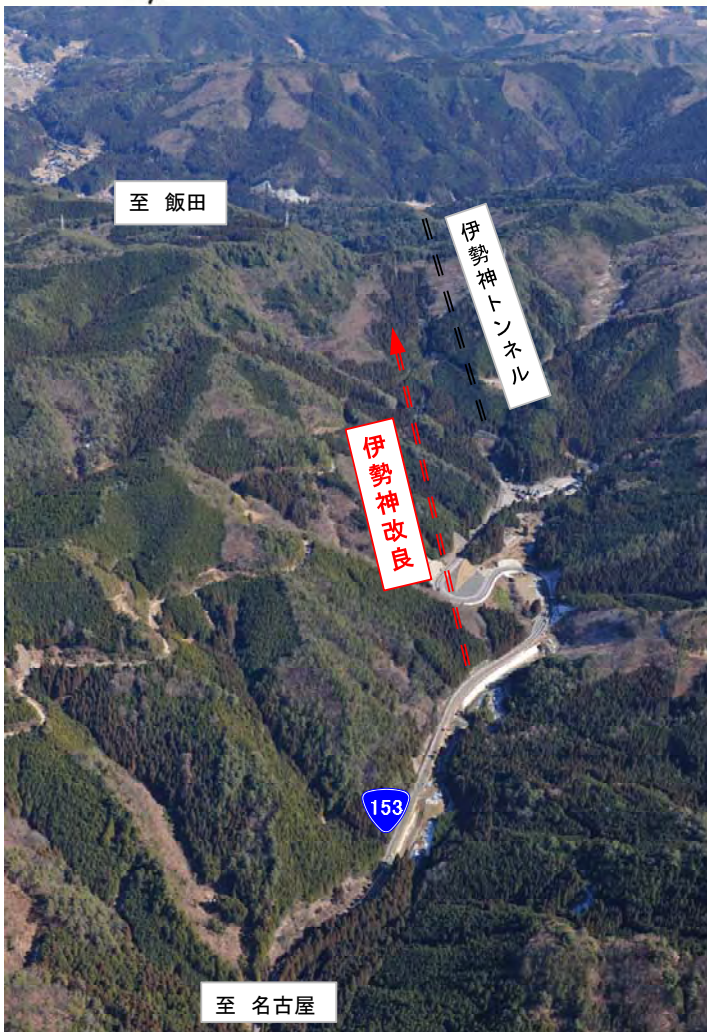
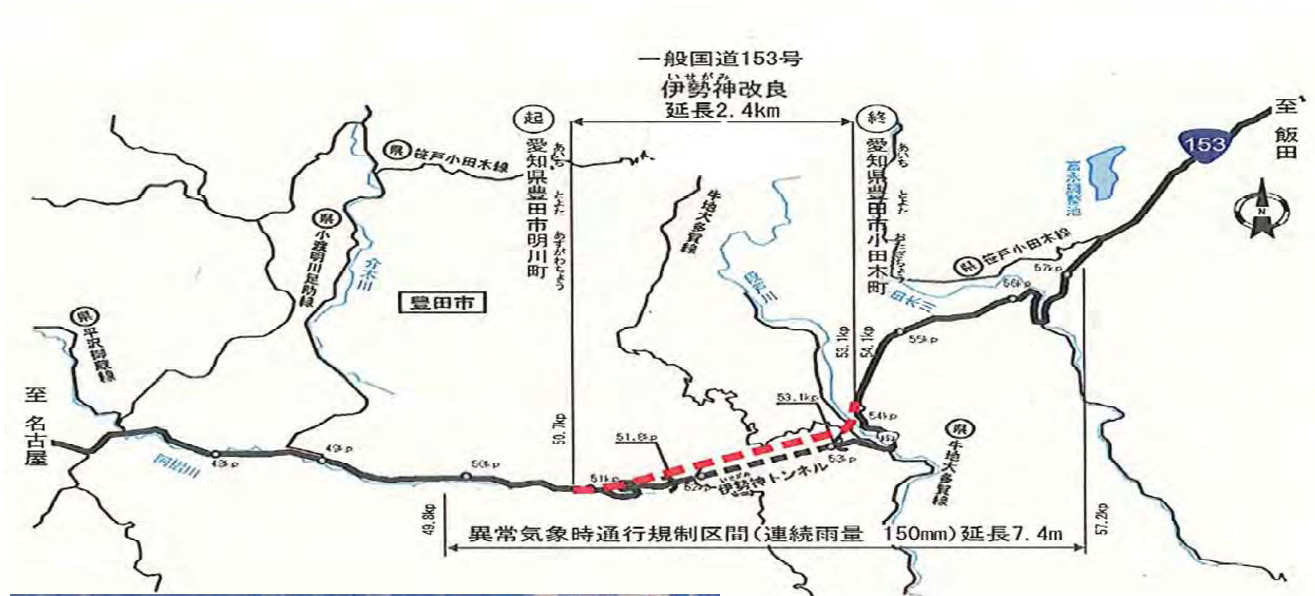


# ① 平成24年度 新規事業 国道153号伊勢神改良

平成24年度新規事業化となった「国道153号伊勢神改良」は、危険性が高い現道153号の落石崩壊等の対策、現道トンネルの高さ制限等の断面不足を解消することを目的に計画された局部改良事業です。

## 実施箇所

愛知県豊田市明川町～愛知県豊田市小田木町（延長2.4km）



(伊勢神トンネル出入り口付近の大型車通行状況)



(トンネル内の大型車のすれ違い状況)



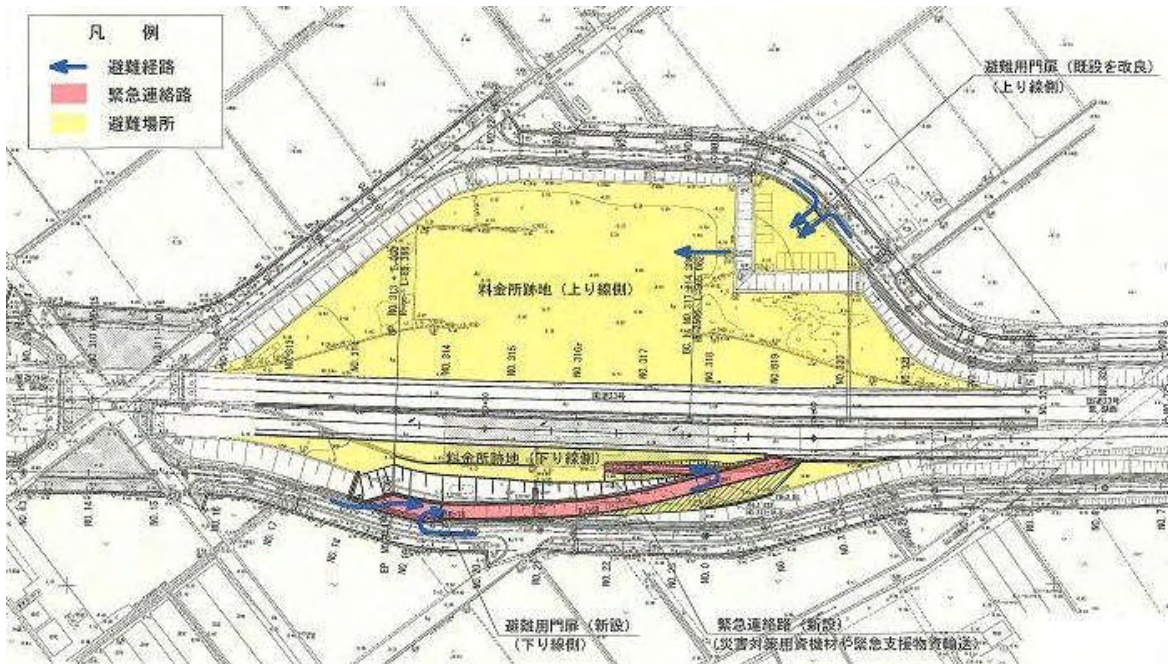
## ②国道 23 号豊橋バイパス緊急連絡路の整備

東日本大震災では、津波を考慮して高台に計画された高速道路などが、住民避難や復旧のための緊急輸送路として機能しました。当事務所でも、大規模地震に備え、愛知県豊橋市の豊川橋料金所跡地に、バイパス本線から沿岸地域へ災害対策用資機材や緊急支援物資を輸送する「緊急連絡路」の整備を行い、平成 24 年 8 月 10 日に完成しました。

また、同年 8 月 20 日に豊橋市長と名古屋国道事務所長との間で「一般国道 23 号の一部を緊急避難場所として使用することに関する覚書」を締結し、津波発生時には高台にある「料金所跡地」を避難場所、「緊急連絡路」を避難路として使用できるようにしました。



覚書締結式(平成 24 年 8 月 20 日)



豊川橋料金所跡地における緊急連絡路と避難経路



豊川橋料金所跡地全景

**三陸縦貫自動車道(開通率51%)の部分供用区間が、住民避難、復旧に貢献**

- 釜石山田道路 4.6km (H23.3.5開通)
- 唐桑道路 3.0km (H22.12.19開通)
- 宮古道路 4.8km (H22.3.21開通) 等

**<災害に強い高規格道路として>**

- 救援・救助活動を支援
  - 自衛隊等の緊急車両の到達を可能とし、沿岸市町村への救援ルートを確認
- 復旧のための物資輸送道路として機能
  - 食料、医薬品、燃料等の救急救援物資を防災拠点、避難所に届ける緊急輸送路として機能

**<副次的にも機能する公共インフラとして>**

- 発災直後の住民の避難場所として機能
  - 宮古道路では、住民約60人が盛土斜面を駆け上がり道路に避難
  - 釜石山田道路では、小中学校の生徒・地域住民が自動車道を歩いて避難

釜石市長の発言 (H23.4.12衆議院総務委員会より)  
児童生徒たちは、高台への避難場所へ逃げた後、互れきで埋まり、また津波で破壊された国道45号で立ち往生することなく、この自動車道を歩いて市内の避難施設までたどり着くことができました。この地域の住民も同様であります。また、被災後はこの自動車道を通じて救急患者が搬送され、さらには避難所に救援物資を運ぶ道路として、まさに命をつなぐ道として機能したところであります。

釜石山田道路(自動車専用道路)を歩いて避難する住民

東日本大震災で三陸縦貫自動車道の果たした役割

(「東日本大震災を踏まえた緊急提言」(H23.7.14 高速道路のあり方検討委員会)より抜粋)